

5月17日（日曜日）、小川入国有林（長野県木曽郡上松町）において伊勢神宮（三重県伊勢市）で2033年に執り行われる第63回「式年遷宮」に向けた祭典の一つ「仮御樋代木（かりみひしろぎ）伐採式」が営まれ、仮御樋代に使われる木曽ヒノキの伐採が行われました。

遷御（せんぎょ）の際に御神体を一時的に納める「仮御樋代」の御用材を伐採するにあたり、木の本に坐す神をお祀りし、忌斧を入れる式です。

（関連記事 広報誌「中部の森林」2025年7月号（第254号）掲載、各地からの便り令和7年9月17日掲載）

御用材伐り出しの安全を祈る修祓の後、木曽森林管理署長より斧だけで伐採する伝統技法「三ツ紐伐り（みつひもきり）」等を説明、地元木曽地域の三ツ紐伐り保存会七名が、約一時間かけ樹齢約300年、高さ26メートル、直径60センチの大木を伐り倒しました。大木が予定された位置にゆっくりと倒れる姿を見守った参加者や地元上松町の小中学生から大きな拍手が沸き起こりました。

なお、木曽森林管理署では「木の文化」を支えるための伝統的な林業技術の継承に協力していきます。





【関連記事】広報誌「中部の森林」2025年7月号（254号）掲載
各地からの便り（令和7年9月17日）掲載

中部の森林2025年7月
（第254号）

各地からの便り令和7年9月17日



写真：三ツ紐伐りによる伐倒（東濃管内）

私の森語り「森林から学んだことを著し活動に活かす」
高山市科学博物館 学芸員 次田 道人

特集

- ・伝統技術継承への協力
- ・緑の普及業務
- ・山へ出かけてみませんか

シリーズ

- ・現場最前線からの便り、私の森語り、中部の保護林、
- 秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局

2025/No.254

各地からの便り【令和7年9月17日】

9月17日 「伝統技術継承への協力」式年遷宮御船代祭御船山伐木の儀

【木曾森林管理署・東濃森林管理署】

【木曾森林管理署】

9月17日（水曜日）、小川入国有林（長野県木曾郡上松町）において伊勢神宮（三重県伊勢市）で2033年に執り行われる式年遷宮に向けた祭典の一つ「御船代祭」の「御船代祭御船山伐木の儀」が営まれ、御船代に使われる木曾ヒノキ、内宮（皇大神宮）用の伐採が行われました。

御船代祭は、御神体を納める器である、「御種代」をさらに納めるための器である「御船代」の御用材を伐採するお祭りです。

（関連記事 広報「中部の森林」2025年7月、第254号掲載）

地元の三ツ紐伐り保存会10名のほか、伊勢神宮堂林部の5人が、斧だけで伐採する伝統技法「三ツ紐伐り」で約2時間かけ樹齢約300年、高さ35m、直径96cmの大木を伐り倒しました。大木が予定された位置にゆっくりと倒れる姿は素晴らしい、見守った関係者から大きな拍手が沸き起こりました。

なお、伝統的な林業技術を間近に見ることが出来る貴重な機会でもあることから、局架線集材研修の一環として研修生も現地で伐倒の様子を見学しました。

